

太田八幡山古墳(太田市)

太田八幡山古墳(4世紀末から5世紀初頭築造の前方後円墳)は前方の八幡山の山頂にあり、そこには鎮守八幡宮が鎮座する



八幡山を見上げたところ/南西側から見たところ



八幡宮の鳥居が立っている/右手の標柱には「太田市指定史跡 八幡山古墳」と記されている



急激な階段を登って行く



途中、右手の平場から山頂を見たところ/この上半分くらいが盛土された墳丘かも



もう少しで階段を登り切る



そこで右手を見たところ/墳丘の感じが見て取れる



同じく左手を見たところ/右手上部に白い説明板が見える



登り切ったこの平場は前方部/前方のマウンドが後円部で八幡宮が鎮座している



太田市指定史跡 はち まん やま こ ふん
八幡山古墳

指定年月日 昭和五十六年十二月二十三日
所在地 太田市大島町一・二・九

金山丘陵の南に位置する独立支丘である八幡山（標高七十八・五メートル）の山頂を利用し、構築された前方後円墳である。

古墳の主軸はほぼ南北で、全長約八十メートル、後円部の幅約五十メートル、前方部の幅約三十五メートルである。

葺石には金山の溶結凝灰岩が使用されている。後円部の墳頂上に建てられている八幡宮社殿の踏石に緑泥片岩が利用されていることから、石室は竪穴系の組み合せ式箱式石棺などが推定できる。

出土品には円筒埴輪があり、このほか大刀・鏡が出土したと伝えられている。

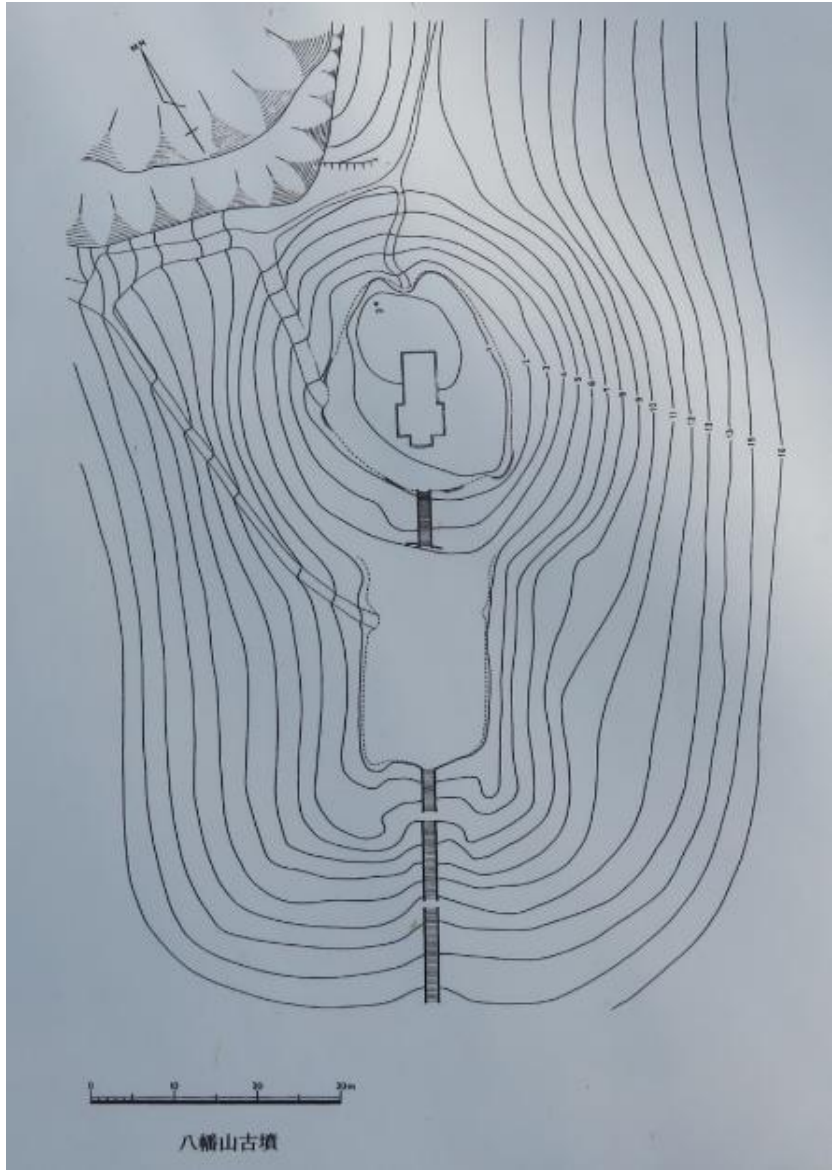
造られた時期は、四世紀末から五世紀初頭と推定され、太田付近に古墳文化がもたらされた時期に出現した初期古墳の典型であり、前方後円墳としては、規模は大型である。

古墳時代初期にあって畿内大和政権となんらかの結びつきをもったこの地域の豪族層の墳墓と推定される。

平成二十七年三月二十五日

太田市教育委員会





振り返って南西側を見下ろしたところ



前方部の右手を見たところ



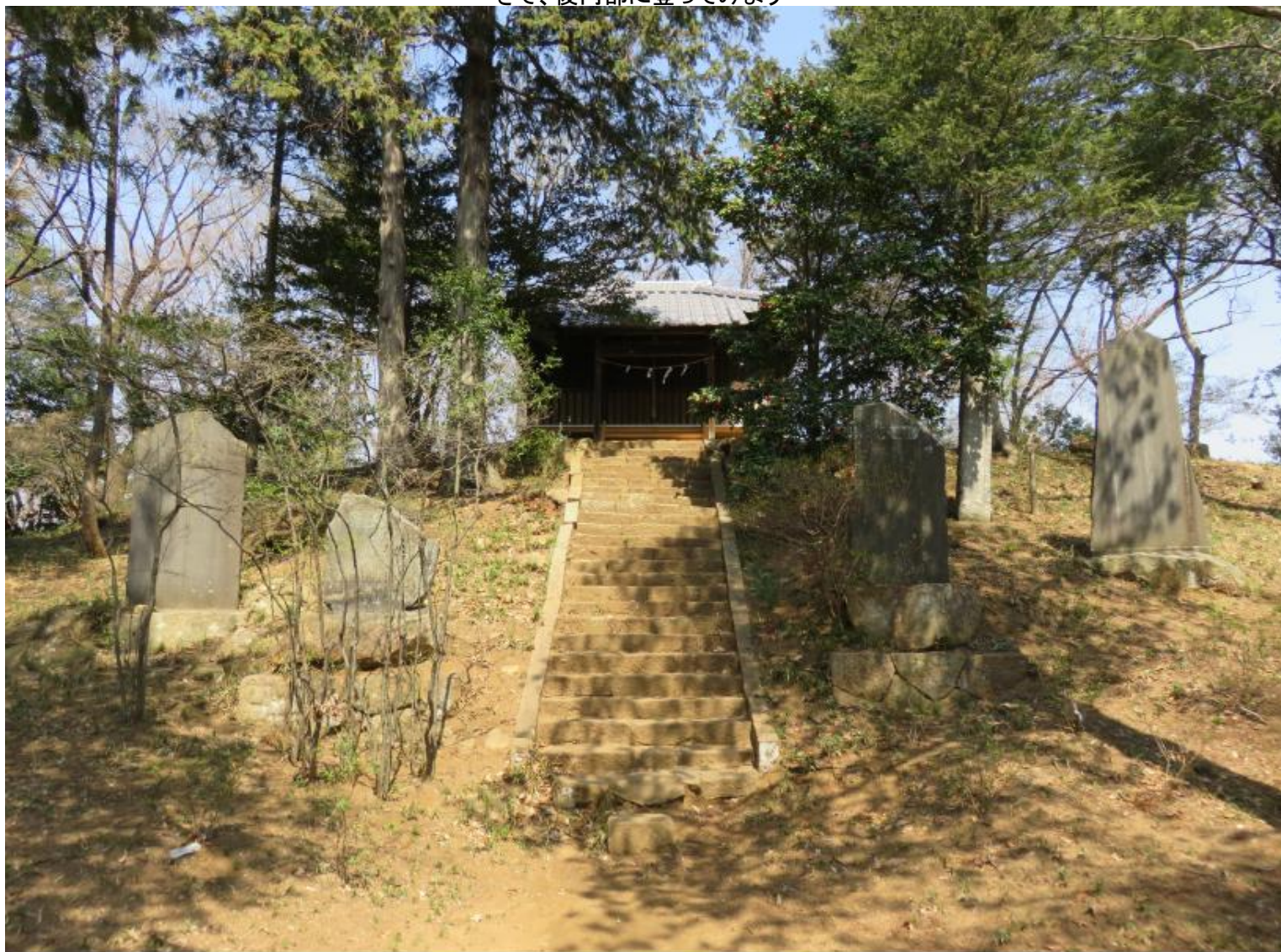
同じく左手を見たところ



これは前方部墳頂から南東方向を見たところ



さて、後円部に登ってみよう



八幡宮社殿/踏石は緑泥片岩が使用されていると云う



奥に本殿が見える



これが緑泥片岩の踏石



振り返って前方部を見たところ



後円部墳頂に建つ八幡宮社殿/左手前が拝殿、右奥が本殿の覆屋/社殿下に竪穴式石室があったらしい



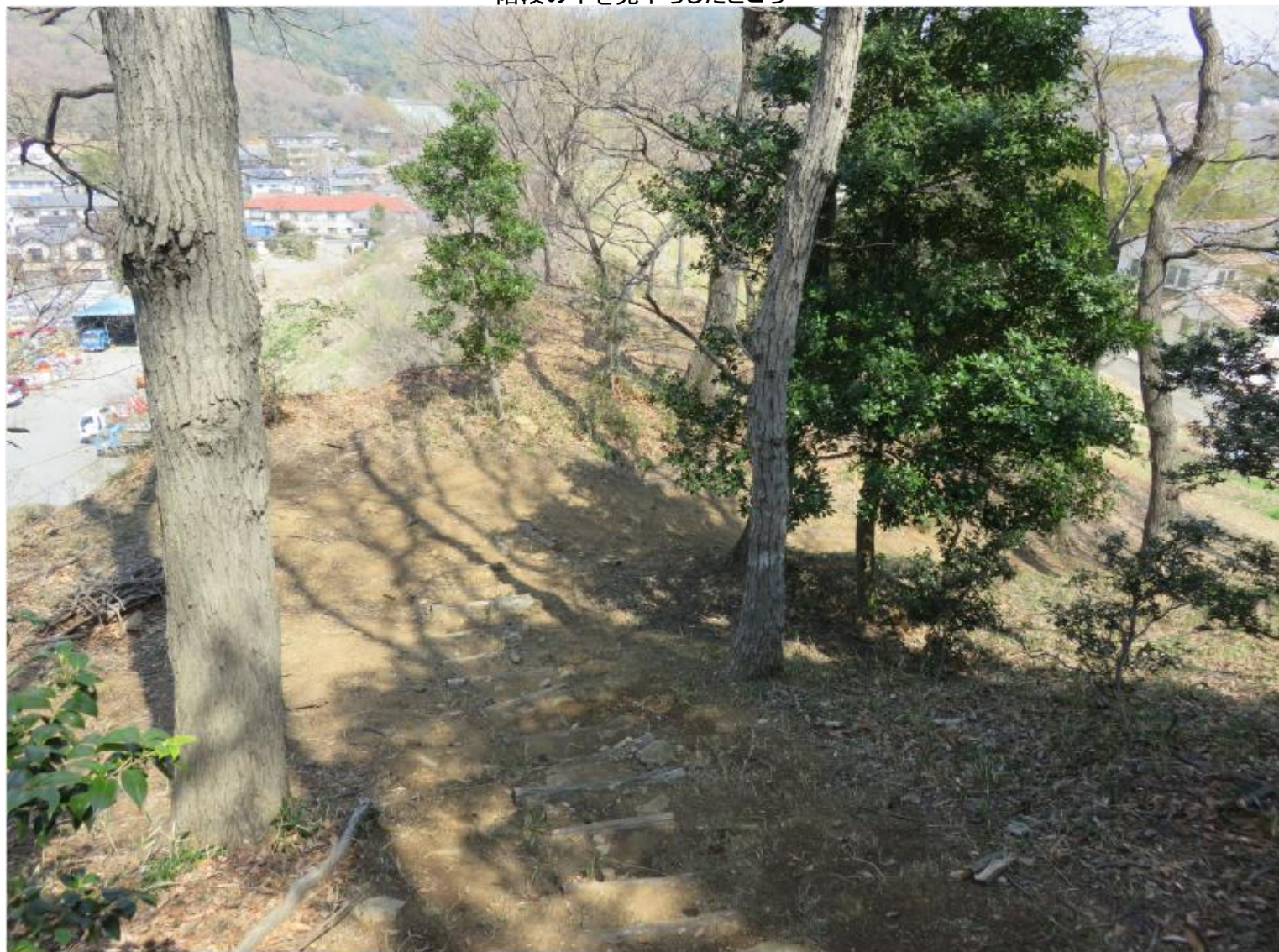
社殿の背後に回る



これは社殿背後の後円部から北東方向を見たところで、ここから下る階段がある



階段の下を見下ろしたところ



階段の下から先はこんな感じで、元々の地山であろうか



そこで左手を見下したところ/かなり急峻な斜面となっている



振り返って後円部を見上げたところ/この部分が盛土された墳丘なのか



これは後円部(右手前)から前方部(左奥)を見たところ/この上半分が盛土された墳丘のようだ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/ota_hatiman/

<http://kohunist.choitoippuku.com/%E7%BE%A4%E9%A6%AC%E7%9C%8C%E5%A4%AA%E7%94%B0%E5%B8%82%E5%85%AB%E5%B9%A1%E5%B1%B1%E5%8F%A4%E5%A2%B3.html>

https://blogs.yahoo.co.jp/npcsk058z/31908173.html?_yvsp=5YWr5bmh5bGx5Y%2Bk5aKz77yI5aSq55Sw5biC77yJ

